mizuki

みずき
第14号

大阪医科大学附属病院　病院医療相談部　医療連携室ニュース●2009年10月発行

contents

●診療科の紹介「整形外科」……P.2
●診療科の紹介「麻酔科」……P.3
●医療連携室から……P.4
●編集後記 ……P.4

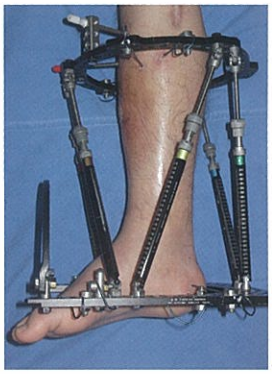
診療科の紹介●整形外科

整形外科領域全体をカバーする専門外来を展開し患者1人1人の病態と要望に沿ったオーダーメイド治療を行います

保存療法と手術療法を組み合わせて、
あらゆる運動器疾患・外傷に幅広く対応できるようにしています。

整形外科 科長
木下 光雄

当科では運動器疾患・外傷の部位別あるいは分野別に専門グループがあり、きめ細かい対応を行っています。現在専門外来として、脊椎・脊髄外科、側彎症、上肢の外科（肩・肘・手の外科とその関連領域）、関節外科（股・膝関節疾患、リウマチ）、足の外科、小児整形外科、骨・軟部腫瘍、創外固定を設けております。また骨折治療、関節リウマチ治療、スポーツ整形外科にも各々の専門グループが対応しています。これらが相互に連携しながら最大の治療効果が得られるように努めております。


創外固定器による変形矯正

人工股関節全置換術

椎間板ヘルニア最小侵襲手術

鏡視下肩腱板縫合術

先股脱オーバーヘッド牽引

外反母趾手術

専門グループにおける最新治療の幾つかを紹介いたします。

脊椎・脊髄外科領域では、脊柱管狭窄症などの脊椎変形による麻痺に対し神経除圧に脊椎の固定術を加えた手術を行っています。脊柱側彎症の矯正手術にはナビゲーションシステムを使用し安全性の向上に努めています。また椎間板ヘルニアには鏡視下最小侵襲手術を行い、早期離床・早期社会復帰を可能にしています。

上肢の外科領域では、麻痺に対する機能再建手術、先天性あるいは外傷性の関節変形や拘縮に対する矯正術や解離術、人工肘関節置換術、関節軟骨障害に対する骨軟骨移植術を行っています。また肩の腱板断裂に対して、鏡視下腱板縫合術を行い良好な治療成績を得ています。

膝・股関節外科領域では変形性あるいはリウマチ関節症に対して人工関節置換術を、また術後に緩みを生じた人工関節の再置換術を行っています。また近年話題となっているFAI（femoroacetabular impingement）や股関節唇損傷に股関節鏡を用いた低侵襲の手術を行っています。

足の外科領域では外反母趾、症候性扁平足や先天性内反足などに対する独自の変形矯正手術を行っています。さらにスポーツ障害にも積極的に鏡視下手術を行い、早期のスポーツ復帰を目指しています。

骨関節変形や脚長不等に対しては、創外固定器を用いた仮骨延長による骨長調整術や変形矯正術を行っています。

この他にも骨軟部腫瘍領域や小児整形外科領域の難治性疾患に対しても高度な治療を行い良好な成績を得ています。

入院治療は必要最小限の日数で最大の効果が得られるように配慮しており、主な疾患についてはクリニカルパスを作成しこれを実践しています。

当科外来を医療連携室を通して予約受診される患者さまについては、医師名が明記されている場合にはその医師が、また専門外来名が指定されている場合にはその専門の医師が診療にあたっています。お申し込みが大変多く、なかなか予約の取りにくい場合もあるのですが、待ち時間短縮のためにも、予約をお取りいただいての受診をお願いいたします。

専門外来はすべて再診の方のみの完全予約制となっており、受診日と受診時間は患者さまのご都合も考慮して決めるようにしています。

詳しくは当整形外科学教室のホームページをご覧いただくか、医療連携室にご確認ください。

診療科の紹介●麻酔科

麻酔科 科長
南 敏明

米国議会は新世紀の始まる2001年1月1日からの10年間を
「痛みの10年」(The Decade of Pain Control and Research) とし、
痛みに対する診療・研究・教育を発展させることを宣言しました。
日本においても、厚生労働省の「慢性疾患対策の更なる充実に向けた検討会」で
慢性疼痛に対する診療科を超えた全人的なアプローチの検討がなされています。
大阪医科大学附属病院麻酔科ペインクリニック外来は、
日本において東京大学に次いで2番目に古い歴史を有し、
ブロック治療と鍼などの東洋医学を組み合わせた治療を行い良好な成績をあげています。

大阪医科大学附属病院麻酔科では、手術麻酔、ペインクリニック、集中治療、緩和医療を担当しています。

大阪医科大学附属病院中央手術室では年間約8,000症例の手術が施行され、年間約5,000症例の手術麻酔を、厚生労働省から特別に標榜を許可された麻酔科標榜医、日本麻酔科学会の認定医・専門医・指導医が、手術前の術前診察およびインフォームド・コンセント、手術中の全身管理、手術後ICUでの循環、呼吸、栄養管理などの周術期管理を担当しています。新規の麻酔薬・医療機器の開発、侵襲の少ない手術手技の導入により未熟児から超高齢者までの手術麻酔が安全に行うことが可能になっています。

ペインクリニックは、年間約15,000名の外来患者と約100名の入院患者の治療を行っています。帯状疱疹後神経痛や複合性局所疼痛症候群などの神経障害性疼痛や椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症などの整形外科的疾患に対しては、点滴治療・硬膜外ブロック・神経根ブロックだけでなく、鍼・SSP・レーザー治療などの東洋医学を組み合わせて痛みをコントロールしています。多汗症に対する胸腔鏡下交感神経切除術、眼瞼痙攣・片側顔面痙攣に対するボツリヌス毒素療法、顔面神経麻痺に対する星状神経節ブロックや鍼治療など痛みを有さない疾患の治療も行っています。また、緩和ケアチームの一員として癌性疼痛の管理にも参加しています。

現在、日本全国で麻酔科医不足が深刻な問題となっていますが、非常勤医を含めた麻酔科医局員の出身は、北は弘前大学、南は鹿児島大学まで日本全国15大学以上からなり、大阪医科大学附属病院麻酔科は個性豊かな職人の集団です。

医療連携室から

●第6回 四医師会 大阪医科大学医療連携の会（7月18日ホテルグランヴィア大阪）

近隣医師会（高槻市、茨木市、摂津市）の先生方と大阪医科大学医師会との連携を深めるために今年も例年通り開催させていただきました。

講演会では新任の皮膚科科長・森脇真一が「実地医療でのかゆみ対策」、総合内科科長・浮村聡が「病院総合医としての感染対策～今回の新型インフルエンザから学んだこと～」と題してお話をさせていただきました。当院へのご理解を深めていただき、また少しでも先生方の日ごろの診療のお役に立てていただければ幸いです。

懇親会では、医師会との垣根を越えた会話の輪が広がり、にぎやかな情報交換の場となりました。お忙しい先生方ですが、楽しく、有意義な時間をお過ごしいただけたことと思います。

●「診療のご案内2009」発行にあたって

2009年度の「診療のご案内」が完成し、8月に発送させていただきましたが、みなさまのお手元に届いておりますでしょうか。本院への患者さまのご紹介等にご参照ください。

患者さまのご紹介方法・セカンドオピニオンのご案内・各診療科の特色・外来担当医師の専門分野等たくさんの情報が詰まっていますので、一度じっくりご覧いただけたら幸いです。

大学病院ということもあり、先生方の入れ替わりも多く確認・訂正といった作業が大変ですが、表紙の色やデザイン等を決め、美しく出来上がってきたときには喜びもひとしおです。

今後も更なる内容の充実を目標に改良を加えていきたいと思いますので、お気付きの点やご意見などございましたら、ご一報いただきますようお願いいたします。

編集後記

平成21年も残すところ、二ヶ月余りとなりました。「みずき13号」の編集後記では、衆議院の解散時期について触れましたが、結局、最も遅い時期の解散となりました。編集後記に、毎回政局の話題を取り上げるのはどうかとも思いましたが、医療現場は政局に振り回されているのが現状であり、この号が発刊される頃に、政権を取り国政を維持しているのがどの党であったとしても、選挙前の各党の「マニフェスト」の実効力を見定める必要があります。

衆議院の解散総選挙も大きな話題でしたが、医療現場ではやはり「新型インフルエンザ」の流行が最もショッキングな出来事でした。二十四節気の「寒露」も過ぎ、新型インフルエンザへの対応が非常に気になります。本院も、各部署総出で晩春から初夏にかけて積極的且つ模範的な対応を心掛け、内外から大きな信頼を得ました。今後、本格的な流行のシーズンを迎えることになりますが、より緻密な対応を実行することにより、地域の皆様方の健康を守っていきたいと考えております。

（T.S）

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室　〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
TEL.072-684-6338（医療連携室直通）FAX.072-684-6339

作成　2009年10月